

報告

世界天文年 全国同時七夕講演会の報告

～愛知教育大学の場合～

沢 武文（愛知教育大学）

愛知教育大学では「七夕講演会」と「第1回サイエンス・カフェ」とを合体させて開催しました。これは、今年度から「科学・ものづくり教育推進のための拠点づくり」の活動が本学で始まり、その活動を兼ねるためです。

本学で年6回、土曜日に開催している天文台一般公開も今年の5月で50回となりました。天気が悪い場合、一般公開への参加者は20名を少し超えるくらいです。七夕講演会の当日は夕方から厚い雲に覆われており、また平日ということで、参加者はかなり少ないだろうと予想していました。ところが実際は50名もの参加があり（図1）、こちらが驚きました。新聞などで取り上げられたことや、平日だったため、附属高校の生徒が学校帰りに参加してくれたことなど、一般公開とは違った参加者が多かったためだと思われます。

講座では、最初、「世界天文年」について簡単に説明した後、「私の研究から—アンドロメダ銀河と銀河系は衝突していた！？—」というタイトルで、現在の私自身の研究内容の話をしました。銀河系とアンドロメダ銀河の2つの銀河を中心に、大小マゼラン雲など50個ほどの小さな銀河が存在していますが、これらを局所銀河群と呼びます。これらの小さな銀河の多くが、銀河系とアンドロメダ銀河を含む平面近辺に分布していることなどから、これらの小さな銀河は、宇宙初期にアンドロメダ銀河と銀河系が衝突した結果生まれ、その近辺にまき散らされたのではないかという、新しい考えを紹介しました。難しい式も少しは出てきましたが、銀河の衝突と、それによって形成された銀河がまき散らされていく様

子のアニメーションは、参加者の皆さんにも



図1 講座の様子

楽しんでいただけたのではないかと思います。

講演の後、今回初めて、カフェタイムを実施しました。それぞれ、参加者同士がお菓子をつまみながら歓談していましたし、こちらにも質問が来たりしました。空も曇っていましたし、みなさんには、ゆっくりと歓談を楽しんでいただけたと思います。

カフェタイムの後は、望遠鏡の見学ということで、屋上に上がりました。屋上に出たときの最初の声は、「わー、きれい」でした。というのは、ハイウェイオアシスの観覧車が目の前に見え、その照明が刻々と色や形を変えているからです。ところが、この日はライトダウンを行う日であったため、午後8時にはその明かりも完全に消えていました。

最初は望遠鏡の見学だけの予定でしたが、雲の移動が早く、雲の切れ間からアークトゥルスが顔を出しましたので、さっそく見ていただきました。そのうち、土星の方向も少し雲が薄くなり、雲の合間から非常に細い輪を持った土星も見ることができました。